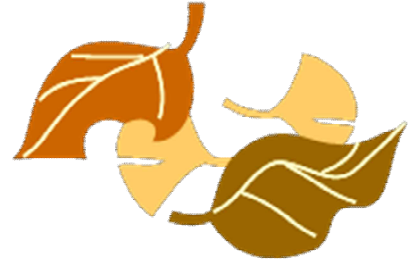


市長が落ち葉を通じて、物事のとらえ方と価値観について政策秘書課職員に話をした内容です。

落ち葉

秋の風物詩といえば落ち葉ですが、皆さんはどのような印象を持たれているでしょうか。掃いても掃いても、すぐに庭先を汚してしまう厄介者でしょうか。



子どもにとっては、落ち葉は格好の遊び道具です。落ち葉が敷き詰められると、地面はフカフカのじゅうたんとなり、飛び込んでも痛くありませんし、斜面を楽しい滑り台へと変えてくれます。また、植物にとっては、落ち葉は大切な栄養素です。落ち葉は発酵し微生物に分解されて腐葉土となり、新しい葉をつけるための養分となります。越冬する昆虫にとっては、落ち葉は温かい寝床となります。このように、同じ落ち葉でも、とらえ方を変えれば価値が変わります。結局、落ち葉は落ち葉でしかなく、落ち葉をごみにするのは、物事のとらえ方と価値観なのです。つまり逆に、物事のとらえ方と価値観を変えれば、一見ごみでも有用なものへと変わるかもしれません。

人間関係がうまくいかないとき、「価値観が合わない」とか、「性格が合わない」といったことがよく出てきます。私は、性格については、持って生まれた性分や育ってきた環境による影響が大きく、なかなか変えられるものではないと思っていますが、価値観については、学び理解することで、ある程度は変えられるものだと思っています。様々な人たちの、様々な価値観を理解するということは、これから人とひとが支え合って生きていく、地域福祉の実現に必要なもので、これから人が社会生活を営む上で、他人のためにも自分のためにも、それぞれが身につけなければいけないものだと思います。

以前、おおらかさは自然から学ぶのが一番だとお話ししましたが、おおらかさとは多様性、つまり様々な価値観を認めて受け入れることだと考えています。様々な価値観を学ぶ上で、最も良い手本となるのは、やはり自然だと思います。人工物に囲まれた便利な生活に慣れてしまうと、何でも思いどおりになるという価値観となってしまいがちです。そうするといずれ、人付き合いも、暑さ寒さも、子どもが泣く、枯れ葉が落ちるといった当たり前の事さえもわずらわしいと感じ、受け入れられなくなります。自然のような、あるが

ままでコントロールできないものを学び、人間も自然の一部であることに気づき、わずらわしさを受け入れられる価値観を身につけることが、これからの社会に求められているのだと思います。

これから落ち葉の舞う季節となりますが、季節の移ろいなどを通して自然をよく観察すると、これまでは気づかなかった物事のよしあしに気づき、自分の中に新しい価値観が生まれるはずで。それは自身の物事のとらえ方を変え、おおらかさを身につけ、わずらわしさを受け入れる一助になることでしょう。

～市長の話を聞いて～

秋になり、うちの子どもが近所の公園で遊んで帰ると、ポケットから大量のドングリが出てきます。大人にとっては、なぜこんなものを持って帰ってくるのか・・・せめて洗濯機には入れないで・・・とってしまうのですが、子どもにとっては宝物なのでしょう。捨てるのも忍びないので、ガラスの器に入れて飾ってみましたら、ちょっとしたインテリアになりました。ドングリひとつ、見せ方を変えるだけでも大きく価値を変えることができるものです。

